

日本国憲法	1年・前期	2単位 30時間	教授 吉田 一康
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220161

1. 授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解する。特に、最近、問題となっている憲法改正や皇位継承、自衛隊の海外派遣については、論点を詳細に考察して、自分の意見を持つことを目的とする。また、2009年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておく。

2. 学修の到達目標

1. 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について説明することができる。(D-2)
2. 自由権について、科学的根拠に基づいて独自の意見を述べるができる。(D-2)
3. 憲法第9条を暗記し、国際的な視点から、その異なる解釈を述べるができる。(D-4)
4. 保健・医療・福祉制度を統合的に調べて、社会権について説明することができる。(D-3)
5. 基本的人権について調べて、自然権思想について説明することができる。(D-1)

3. 授業の進め方

1. 50～60分 配布するレジュメ（要約の印刷物）に従って、パワーポイントを使用して講義を行う。憲法の第1章「天皇」第1条から第11章「補則」第103条まで、重要事項について、基本的に条文番号順に説明する。
2. 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行う。また、質問・意見があれば討議を行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、Classroomを使用しての双方向アンケート及び小テストによる理解度チェックを行う。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Classroomによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出など。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修 (下記参考文献やインターネットを使用)	担当
1	講義紹介	講義	予習：参考文献「憲法概観」に目を通す。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田一康
2	憲法とは（憲法制定、硬性・軟性憲法）	講義	予習：「憲法」の定義・分類について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
3	国民主権と天皇制（象徴天皇、皇位継承）	講義	予習：「国民主権」の定義と「皇室」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
4	戦争放棄（自衛戦争、侵略戦争）	講義	予習：憲法9条を暗記し、「戦争放棄」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
5	第9条関係（自衛隊の海外派遣）	講義	予習：「自衛隊の海外派遣」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
6	権利の主体（日本国民、外国人、法人）	講義	予習：憲法は誰の権利を守ってくれるか調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
7	基本的人権（法の下での平等）	講義	予習：「基本的人権」の定義・歴史について調べる。	吉田

			復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	
8	自由権（思想及び良心の自由など）	講義	予習：「自由権」の定義・歴史について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
9	社会権（生存権など）	講義	予習：憲法 25 条を暗記し、「社会権」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
10	財産権・人身の自由（財産権の不可侵など）	講義	予習：「財産権」と「人身の自由」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
11	参政権（選挙権，被選挙権，公務就任権）	講義	予習：政治に参加する方法について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
12	国会（二院制，国政調査権）	講義	予習：「国会」と故郷の議員について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
13	内閣（議院内閣制，解散権）	講義	予習：「内閣」と現在の閣僚について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
14	裁判所（裁判員制度）	講義	予習：「三審制」と「裁判員制度」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田
15	司法，財政，地方自治，憲法改正など	講義	予習：「財政」「地方自治」「憲法改正」について調べる。 復習：練習問題の間違い箇所を確認復習する。	吉田

5. 成績評価の方法・基準

評価は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に4段階評価（A 80 点以上 B 70～79 点 C 60～69 点 D（不可）60 点未満）で採点する。ルーブリック評価表に関する詳細は、第 1 回講義内で別途説明する。

具体的には、積極性 20%＋期末試験 80%で評価する。積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点する。期末試験の受験資格は、全講義の 3 分の 2 以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、特に上記「2. 学習の到達目標」1 を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と記述問題を出題する。

6. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しないので、特に購入する必要はない。自習のための参考文献として下記のものを挙げる。

1. 小嶋和司・大石眞（2011）：『憲法概観』（第 7 版），有斐閣双書。
2. 木下智史・只野雅人（2015）：『新コンメンタール憲法』，日本評論社。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（90 分）。講義後，授業内容を復習して，レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（90 分）。

8. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や，遅刻・中途退席などの目立つ受講者については，評価を減点又は受講を制限する。国際ビジネス学科との合同授業である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

1. 毎回の講義で行う練習問題の後に、解答及び解説を行う。
2. 期末試験の後に、解答を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導する。